

2009年度業績ハイライト

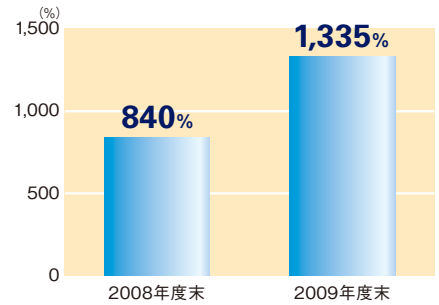
● ソルベンシー・マージン比率

1,335%

ソルベンシー・マージン比率は、2008年度末の840%から495ポイント増加し、1,335%となりました。この主因は、その他有価証券の評価差額が大幅に改善したためです。

※ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかどうかを判断するための行政監督上の指標の一つです。

ソルベンシー・マージン比率の推移



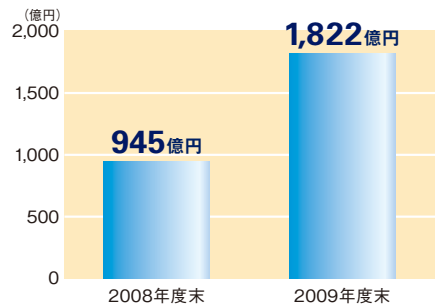
● 実質純資産額

1,822億円

実質純資産額は、2008年度末の945億円から876億円増加し、1,822億円となりました。この主因は、その他有価証券の評価差額が大幅に改善したためです。

※実質純資産額とは、有価証券や有形固定資産の含み損益などを反映した時価ベースの資産の合計から、価格変動準備金や危険準備金などの資本性の高い負債を除いた負債の合計を差し引いて算出するもので、行政監督上の指標の一つです。

実質純資産額の推移

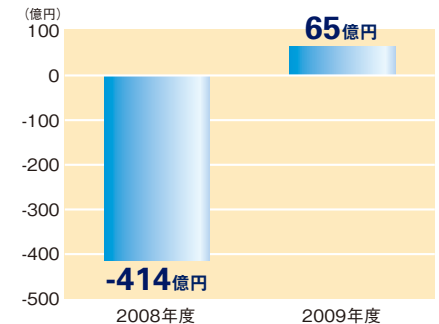


● 純利益

65億円

当期の損益は、有価証券評価損が大幅に減少したことなどから、経常利益161億円、純利益65億円と黒字に転じました。また、保険本業での収益力を示す基礎利益は、235億円、前年度比73.7%となりました。なお、基礎利益上の運用収支等の利回りが平均予定利率を上回っていることから、逆ざやは発生していません。

当期純利益の推移

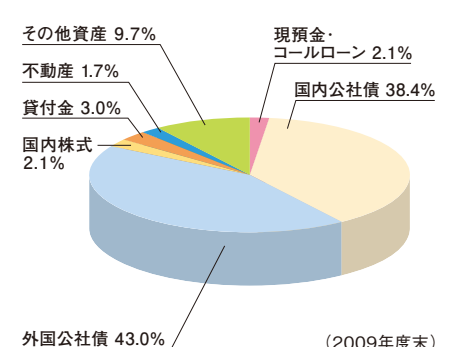


● 資産ポートフォリオ

安全性・流動性に配慮した運用を行っています

2009年度は安全性および流動性確保の観点から、国内株式や不動産投信等の残高を圧縮する一方、国内債券への比重を高めました。外国有価証券については、為替相場の急激な変動に備えるため、残高の圧縮に加えて、為替ヘッジを行いました。なお、有価証券の含み損益につきましては、国内外の証券価格が回復に向かったことなどから、174億円の含み益(責任準備金対応債券を含む)となりました。

一般勘定資産の構成

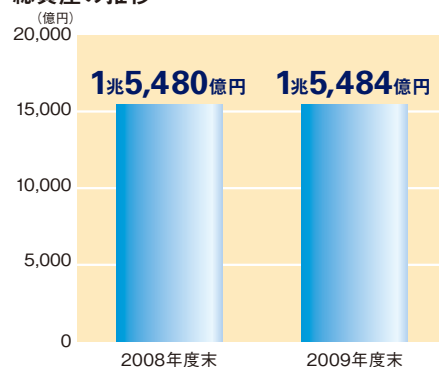


● 総資産

1兆5,484億円

総資産は1兆5,484億円、前年度末比100.0%となりました。また、保険料等収入について、四半期会計期間(3ヵ月間)単位での推移を見ますと、第2四半期(2009年7-9月期)から増加傾向にあります。一方、年間ベースでの保険料等収入は、外貨建一時払個人年金保険の販売の減少により、1,846億円、前年度比81.2%となりました。

総資産の推移

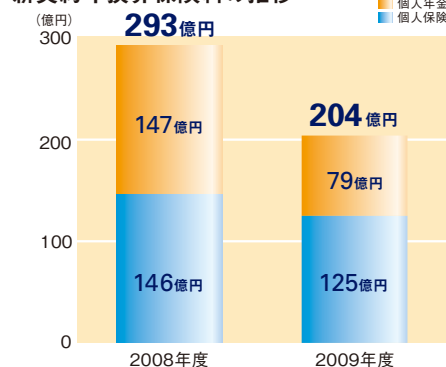


● 新契約年換算保険料

204億円

2010年1月に発売した医療保険「あんしん先取り入院保険 診断革命」の販売が大変好調です。四半期会計期間(3ヵ月間)単位での推移を見ますと、医療保険の新契約年換算保険料の第4四半期(2010年1-3月期)は直前四半期比118.7%と増加しました。一方、年間ベースの個人保険と個人年金保険合計の新契約年換算保険料は204億円、前年度比69.8%となりました。

新契約年換算保険料の推移

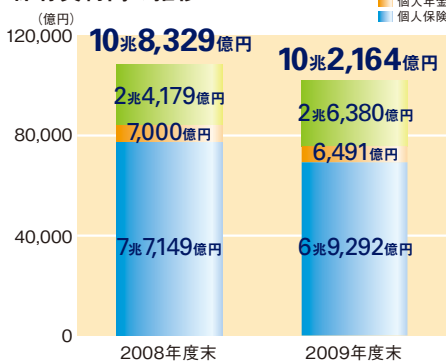


● 保有契約高

10兆2,164億円

団体保険の保有契約高は2兆6,380億円、前年度末比109.1%と増加しました。一方、外貨建一時払個人年金保険の販売を見合わせていた影響から、個人保険と個人年金保険合計の保有契約高は7兆5,784億円、前年度末比90.1%となりました。

保有契約高の推移



● 皆様のお役に立った保険金・給付金

793億円

2009年度の保険金のお支払い金額は451億円(件数:3万1千件)、給付金のお支払い金額は342億円(件数:18万件)となりました。当社は、お客様の信頼にお応えし、お客様に安心と満足をお届けするために、引き続き迅速な保険金・給付金のお支払いを心がけていきます。

保険金・給付金等のお支払い状況

